はつらつ
自治会・町内会活動事例集

目　次

■ 人を集める・育てる

事例1　50代で役員段階を経て区長に
事例2　働き世代のアイデアと力を生かす …… P4
事例3　次世代が担える体制へ
事例4　不動産会社に協力を依頼 …… P5
事例5　戸別訪問で信頼関係を
事例6　各年代で役員を構成 …… P6

■ 組織づくりと運営

事例7　イベント準備を通して自治会活動に触れる …… P7
事例8　バザーでお年寄り支援の資金づくり
事例9　自治会運営をスリム化 …… P8

■ 集う・楽しむ・支え合う

事例10　ふれあい福祉のまちづくり …… P9
事例11　子どもたちにたくさんの思い出を
事例12　防災士を養成 …… P10
事例13　地区内の工場と連携
事例14　住民同士のコミュニケーションの大切さ …… P11
事例15　お年寄りの味方「お助け隊」参上！
事例16　1番誇れること …… P12
事例17　地区の環境や景観を守る
事例18　伝統芸能の継承で絆を強める …… P13
事例19　介護予防で健康長生き
事例20　郷土愛を育む …… P14
事例21　地域おこしに雨乞い祭りを復活
事例22　地域の防災力向上 …… P15

■ つながる・交わる

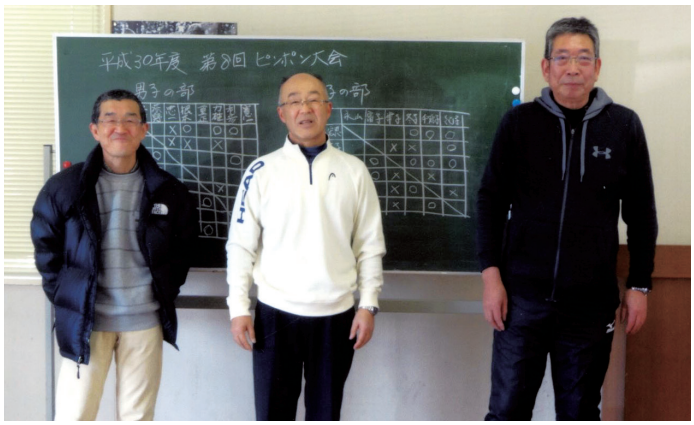
事例23　交流の場づくりの大切さ …… P16
事例24　介護・医療を介した交流
事例25　地区イベントで交流人口を増やす …… P17
事例26　世代間交流で一緒に遊ぶ
事例27　新旧住民の交流を図る …… P18
事例28　住民のための「困り事相談箱」を設置
事例29　地元グループホームと災害協定を締結 …… P19

人を集める・育てる

事例1 合戸区

三和

50代で役員段階を経て区長に



合戸区を支える役員の方々

知識と経験を積み重ね区長に就任

区の役員は、会計、副区長と段階を踏んでから区長に就任します。各役職を２期４年ずつ担うため、役員を務める期間は計12年となり、区の運営に必要な知識と経験を積み重ねていきます。長期にわたって責任を負う大変さはあるものの、地区の人材や課題、財政状況を把握した上で区長を務められる利点が大きいといいます。会計は50代を対象に選ばれるため、区長になるころは 60代で、役員の高齢化も防いでいます。

事例2 いわき南台自治会

勿来

働き世代のアイデアと力を生かす

参加しやすい雰囲気作りが重要

子どもたちが楽しみにしている夏祭り

定年退職者を中心に役員を組織する自治会が多い中、ここ数年前から働き世代も交えた運営に変えています。「若い人のアイデアや力が必要。だから勤めながらでも楽しく関われるようにしたい」と赤坂正治会長。役員８人のうち働き世代は３人。その中には多忙な事務局長を務める人もいます。会議は仕事で欠席しても理解を示し、トップダウンで指示を出すのではなく、やりたいアイデアを出してもらえる雰囲気づくりに努めています。今では次第に働き世代も関わるようになり、夏祭りの計画も進んでまとめてもらえるようになったといいます。

事例3 大高区会

勿来

次世代が担える体制へ

役員の負担を減らし次の世代につなげる

必要な行事として開催を継続している運動会

「大変」と断られがちな区の役員業務。新しい担い手が不足している課題を解決するため、多忙な事務局長の業務を中心にスリム化する改革を実行しています。月2回だった役員会の回数を、内容を減らさず1日に縮小し、事務局長が担っていた細かい議事録の作成を止め、メモ書きで記録するように。事務局長任せだった予算編成も3役でおおよその道筋を立てる変更も。さらに、球技大会を隔年6月に開くのが恒例でしたが、新役員1年目ですぐに開催するのは負担が掛かるため、平成30年度からは「避難訓練」を代わりに実施するなど、必要な行事を残しつつ区長の負担も減らすよう試行錯誤しています。廣瀬周二区長は「現代に合った行事に見直し、次の世代が『これならやれる』という体制をつくりたい」と決意を語ってくれました。

事例4 大字泉崎区

平

不動産会社に協力を依頼

アパートの住民へ隣組参加をうながす取組み

アパート住民と高齢者の隣組への加入が課題。そこで大家さんや不動産会社に協力を依頼し、入居者に加入を呼び掛けてもらっています。

隣組加入者へスポーツ大会や清掃デーといったお知らせの配付を兼ねて定期的にコミュニケーションを取り、行政区の取組みと隣組加入について理解していただけるよう努めています。

事例5 関田自治会

勿来

戸別訪問で信頼関係を

未加入世帯にも情報を発信

自治会の加入では特に若い世代から断られやすいといいます。そこで未加入世帯には戸別訪問して定期的に市の広報物などを配付するようにし、手渡す際にはコミュニケーションを取って信頼関係をつくるようにしています。加入しない老夫婦世帯も見られるといい、馬上昌幸会長は「助け合う必要性が増えるお年寄りこそ加入してほしい」と話していました。

事例6 西町一区町内会

久之浜・大久

各年代で役員を構成

働き世代はまず「知ってもらう」ことからスタート

若い世代も町内会活動に参加

各年代から役員を構成するようにし、若い世代を育成しています。会計などの役員は40～50代の10人、副区長は60代の２人、区長は70代で構成されています。毎月1回、役員会と班長会を合同で開催し、情報交換の場としています。また、働き世代に負担の大きい仕事はさせず、ただ集まりには参加してもらい、地区での活動を知ってもらうようにしています。若い時期から町内会の活動に関わることで重責を担うころには地区を熟知し、スムーズにまとめられるようになります。